

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
1	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	4ページの基本施策1の①『健康長寿のまち武蔵野』の推進の下3行目に「連続性のある活動」とある。これは活動する方自身の連続性のある活動なのか、活動の連続、つまり引き継いで次の世代に行くシステムをつくるという意味合いなのか。	
2	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	武蔵野市のいろいろな活動団体を見ていると、高齢化、後継者がいないということがどこの団体でも言われている。実際、武蔵野市だけではなく、都内全体でもそういう話をかなりされて、どうしているのかと聞かれることも多い。 個々人の活動の連続性も必要だが、その連続性は活動する団体についても後継者がいて連続性がないと、活動自体も連続していかないのではないかと考える。	
3	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	現行計画と第二次調整計画との主要な違いは、「就労を含めた」というところにポイントがあると受け取ったが、その受けとめ方でよろしいのか。 全体としては支え合いの仕組みをどうしていくかということであれば、現行計画でも課題になっていたため、第二次調整計画で修正しているという点で言うと、就労面と捉えた。	
4	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	25ページに載っている就労意欲について。ずっとサラリーマンをやっていたが、会社の再雇用制度は65歳まで、公務員も再任用で65歳まで、法律的には70歳までいかなきゃいけないとなっている。継続して賃金をもらって働く仕組みをどうつくっていくかということに焦点を合わせて市としての施策を考えていくということであるとすると、国の調査で、一般論として記載していることは理解するが、武蔵野市で就労意欲を探ったものとか、データとして持っているものはあるのか。	
5	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	全体として第二次調整計画は、このテーマに関して言うと、具体的な方向性があまり見えない。検討していくというしか捉えられない。就労に重きを置くとすると、市としての行政は難しい面があると思うが、これはそういうレベルの修正であるという理解でよろしいか。	
6	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	最初の就労を含めた高齢者の社会参加というところでは、私は自分の親のことを思うと、別にもう働かなくてもいいんじゃないかなという気はしている。この間の地域応援券みたいな感じで、武蔵野市に住んでいてよかったなと思うところが市としてもっとあるといい。誰しもか必ずしも健康であるとは限らないので、そこを今後もうちょっと考えていけるといいなと思う。	
7	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	全体の討議でなく、6項目に絞られたため意見を深めにくいですが、逆に全体に広がったら自分には考える範囲が広すぎて理解できなかったと思うと、初心者には入りやすかったともいえる。こうした議案にはかならず地域社会でとあるが、定義があいまい。地域とはなにか。地域活動をみんなで担いましょうと呼びかけても担い手がなく、ハードルが高い。人のネットワークが作れること、それはコミュニティという緩やかな活動を大事に考える武蔵野市のコミュニティ政策の良い点だと思うようになった。就労とは言えないかもしれないが、高齢者の生き生きできる場づくりにつながることと思う。	
8	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	社会のお荷物＝高齢者への姿勢は、昨今は「社会参加」の一点張りに表れている。実際に自分の買い物一つにも困難を感じるようになった場合などにおいてはどうでもいい話です。 「社会参加」だけが社会参加ではない。社会の一員だと感じていられる事が社会参加なのだとは思います。これを読むとどこまでもがんばらなきゃいけない、死ぬまで元気が押しつけられているように感じます。高齢者というものを正面からとらえることなしに、これで孤立・孤独死を防げるのでしょうか。 高齢就労者を受け入れる現場では、お荷物一つ引き取るかっていう感覚なのではないでしょうか。 フィンランドでは「暗く長い冬に凍えて過ごす独居老人を1人も取り残さない」と大聖堂を開放しました。高齢者に必要なことってそういうことなんです。 動かぬ体で静かに笑い、人の話に耳を傾け、温かい紅茶を飲み必要なら金も使う、そういう1つの好循環がある、日本では欠けている視点と思う。 高齢者にとって、気持ちよく出かけられ、心地よく日なたぼっこし、安心して過ごせるそういう所が武蔵野にも必要と感じる。	
9	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	現在、私は社協の下部組織のVCMの公募で、来年2月に開催予定の“お父さんお帰りなさいパーティ、の企画に携わっております。その中の議論で、従来は、定年退職したまたはする市民を対象に、ボランティア活動を紹介、セミナーをしていました。しかし、現在は、定年後も自分のスキルを活かして、生涯現役で働きたい、いきなりボランティア活動ではなく、有償のボランティアへの参加等、意識の変化があることを話しています。そうした中、武蔵野市内での再就職や有償ボランティアの情報は少なく、一般の求職サイトやボランティアサイトに掲載されず、就業している方等からの情報やネットワークから得ています。市内のシルバー人材を有効に活用するためにも、第二のハローワーク的な環境、組織、NPOが必要と考えます。今回からの長期計画では、シルバー人材センターの見直しも検討されていますが、就業に向けた活動も視野に入れるべきかと思います。商店会の事業継承問題含め、シルバーの就活（有償ボランティア含む）情報や雇用する側と市民がリンクする市独自のプラットフォーム構築が必要です。	
10	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	具体的に高齢者の方の方々のニーズをアンケート化されたのであれば、それを提示してもらえたら嬉しいなと思いました。ニーズとデマンドが合っているのか分からなかったため、方向性がよいか判断しづらかったのですが、社会参加したい方がどのくらい、月にどれほどの給与があると当事者にとって足りていて、事業所がどのくらいの賃金で雇うのかを検討したときに、複数人の高齢者同士がいるほうが、長く職場に就きやすいのかなど検討事項が明確であれば、方向性に賛成です。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
11	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	今年1月に、共生社会の実現を推進するための認知症基本法が施行され、認知症のある方の社会参加がさらに重視されるようになりました。認知症施策基本計画においても、「認知症の人の社会参加の機会の確保等」が基本的施策の1つに位置づけられています。 私は、若年性認知症の本人ですが、認知症になってもすぐに何もかもできなくなるのではなく、認知症の人や家族等が互いに支え合うための相談・交流の活動（基本計画における相談体制の整備）、そして社会参加の機会の充実がとても大切であることを全国から学んでおります。 市内の（若年性に限らず）認知症の私たちが、人権と尊厳を持って、武蔵野市でも「社会参加」の機会を通して、介護保険につながるまでの空白の期間、介護保険サービスを利用するようになったあとも、あたりまえの暮らしを続けることができるようになればと願っています。 福祉のまち、武蔵野市では、自閉症のある息子が大変よくしていただき、また私自身がうつ病で大変な時も本当にお世話になりました。 そんな素敵な武蔵野市において、高齢者だけでなく、若年性認知症の方がいることを住民の方々にも理解していただく機会にもなると思っております。 就労を含めた高齢者の社会参加の支援 というところに認知症のある方、の記載をどうぞよろしくお願い申し上げます。	
12	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	『(公社)武蔵野市シルバー人材センター』の記載について、当事者でないので私の理解不足かもしれないが、公的機関による就労支援が必須なのでしょうか。たとえば高齢者人材を活用する手段は民間にもあると思われ、公社の事務局機能強化が必ず求められるというわけではないと感じます。	
13	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	『リスクリングに取り組む事業者への支援も検討し』の記載について、事業者への支援やリスクリング自体よりも、あくまで高齢者の市での活躍がゴールであるべきと思う。プロセス（支援、リスクリング）をここに明記する価値がどの程度あるのでしょうか。 明記されていないプロセスが他にもあるのではないかと？たとえば高齢者雇用企業への支援、市外で働く高齢就労者への支援、就労アドバス、など高齢者活躍にリーチするプロセスは色々ありそうに思います。	
14	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	高齢者センターについてですが、現在長期改修のため、高齢者や地域住氏が多大な負担を強いられています。最近では技術の向上により、財政的な負担も少なく、利用者や住民への影響も少ない改修が主流となってきています。それなので高齢者センター全体を使用中止とするのではなく、エリアごとに区分けして一か所ずつ改修していき、改修していないエリアは使用できるようにすると人件費も改修費も節約でき、利用者である高齢者の生活の質も向上すると思います。併せて、現在通行禁止になっている西側の通りを通行できるようにすると地域の住民が暮らしやすくなると思います。 次にシルバー人材センターについてですが、同センターは事務だけでなく、作業・販売の場でもあるため、今までの場所であることが必須の条件であると思われ。隣に中央コミュニティセンターがあるという立地により、赤ちゃんから高齢者まで幅広い年代と日常的に交流することができるので、同センターの仕事のニーズを把握しやすく、市民の方々に同センターの仕事を知っていただけるので、そこで働く方々の生きがいにもつながると思われ。	
15	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	4基本施策1① 3行目連続性のある活動 連続性→高齢者の連続性のある活動であるということでしたが、受け皿である活動団体の連続性を並行して考えていくべきだと考えます。 武蔵野市の活動団体の現在の問題点というのはメンバーの高齢化と後継者不足です。これは武蔵野市だけではなく、 主な理由は時流とこれまでの活動団体のシステムやルールがずれてきていることです。また、現行で活動している方々も後継者がいないことに対する危機感を常に持っているのですが、それにどう対応していくのか策を弄しているのが現状です。 後継者世代がアプローチしてきても団体の今までのシステムやルールに合わないからと受け入れないことが多々起こっています。高齢者の連続性のある社会活動をサポートしていくのであれば、まず受け皿の活動団体の連続性を考えていくべきだと考えます。 戦後、武蔵野市は、他の基礎自治体と異なり、「協働」の理念のもと、ゼロベースで形成された各地域単位の「コミュニティ」をベースに、様々な支え合いの施策を推進してきました。上述の理由から、様々な展開されてきた社会参加の活動が、機能不全に陥るリスクに直面しているのであれば、まさに今こそ、（自治基本条例第17条に明記されている）「コミュニティ」本来の役割が果たされるべき時ではないかと思えます。 社会参加の現場で活躍してきた高齢世代と、その後継となる世代の両方が「協働」し「街ぐるみの支え合い」のしくみを作っていく取り組みについて、互いが出会い、情報を交換・共有し、知恵を出し合い、議論を重ねる、そのような営みが、コミュニティをベースに行われていくこと、言い換えれば、シルバー人材センターの「高齢者の就労」サポート機能を高めていくこと以上に、「就労以外の高齢者の社会参加」の可能性と多様性を広げていく場として、各地域のコミュニティ本来の機能を、どう具現化していくかが問われていると思うのです。 私の知る限り、市内の団体活動の現状は、1)今まで団体を率いていた方の独断性が顕著になり、若いメンバーが退会して成り立たなくなってきた団体 2)代表者の方針に若いメンバーから意義を唱えられ、代表が「勝手にしろ」と活動放棄してしまう団体 3)新しい考えを取り入れて、組織の再編成がなされた団体 4)世代や団体を超えて課題を話し合っ今後につなげていくとするグループに類型化されるように思います。まずは、3)や4)にカテゴライズされる団体の活動、そこからえられる経験と知恵を、地域住民が認知し共有化していく「場」として、コミュニティを位置付けられることはできませんか？	
16	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	p.24の資料、テーマ別論点シートの【市長公約】に“年金+5万円”とあるがどこに書き込まれているのか読み取れない。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
17	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	AI自動運転オンデマンドバスを導入すれば、買い物、デイサービス、私的外出等移動の制約を解消できる。介護職や介助者の付添が必要な場合は、その送迎も可能となり、隙間時間勤務者やボランティアを含む従事可能者の飛躍的拡大で人手不足を一気に解消できる。	
18	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	隙間バイトがCMなどでも多くがっており、シルバー人材センターでも高齢者以外が頼むような仕事の受入などをアプリを活用して受け入れてはどうでしょうか。短時間で単発で終わるようなお仕事でシルバー人材センターの信頼感を生かした工夫ができるように思います。 武蔵野市では自由大学も人気なので、単に収入というだけにとらわれず、興味関心がわくようななかを模索しても面白いと思います。	
19	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	「定年後の高齢者の生きがいの創出」「高齢者の知識、経験、スキルを地域への還元」とともにこれからの武蔵野市(日本)で重要な事項なため、支援が必要だと思う。	
20	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	「連続性のある活動」という表現を使っているが、何が連続しているのか伝わりにくいと感ずるので、言い換えた方が良いと考える。	
21	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	担い手不足が多くで指摘される中、様々な活動で一部の方への負担増や、高齢化が進んでいる一方、定年を迎え様々なスキルや知識を持った元気なシニア層もおり、そのような方を地域へ目を向けていただけるような仕掛けとマッチングできるような場や仕組みが必要ではないか。	
22	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	計画案をあらためて読むと、「連続性ある活動に向けた支援を行う」は初めて読む人にはやや分かりにくい表現であるようにも思われるため、「それぞれの活動をシームレスにつなぐ」や「各活動の間をスムーズに移行できるような社会参加のあり方を検討する」といった表現が適切と考える。	
23	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	就労について市がどのように支援していくかは久留委員指摘のとおり課題や限界もあるが、担い手不足も指摘される中で、市として社会参加を支援を検討していくことは意味のあることと考える。	
24	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	リスクリング支援は、武蔵野市介護人材確保・定着支援金も含まれると感じました。	
25	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	高齢者が健康的に社会参加し続けるために必要な範囲内であれば、賛同します。	
26	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	「(公社)武蔵野市シルバー人材センターの事務局機能の強化」は具体的なイメージがあるのでしょうか。	
27	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	収入を得るための就労だけでなく、「地域における就労を含めた幅広い社会参加の機会の拡充と連続性のある活動に向けた支援」になっていることに賛成です。	
28	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	リスクリングについては、この記載の中では商店街や中小事業者の担い手・後継者不足のための策に見えて、活躍の場がかえって狭まっているようにも見えます。むしろ市民活動の項で、プロボノのような持っているスキルを活かせる参加方法について記述してはどうかと思いました。	
29	就労を含めた高齢者の社会参加の支援	「連続性ある活動」という表現が少しわかりづらく感じます。	
30	子育て世代への外出支援	「子育て世代への外出支援」について。移動の手段としてのレモンキャブの議論は収束したと考えているが、確認してほしい。また、ムーバス空白地域をどう解消するのか。公共交通が満たされていない地域にお住まいの子育て世代のアクセスをどう考えるのかは大きな問題だ。	
31	子育て世代への外出支援	地域の交通は、子育てしている親、保護者、子どもに対してやさしくあるべきと感じます。料金とアクセシビリティについてです。公共交通機関のバリアフリーもそうですが、車内のデザインのアクセシビリティの改善が気になります。例えば、ベビーカーをたたんで子どもをだっこしながらバスに乗るといったのは使いにくい。車イス・ベビーカーのための大きな座席のないエリアを確保し、ベビーカーも車イスもそのまま入れて、そのまま出ることができるようなデザインであってほしいです。	
32	子育て世代への外出支援	レモンキャブやリフトタクシーだけでなく、一般のタクシーやライドシェアを用いた支援も含めて良いと思います。 外出支援つまり経済活動につながる選択肢を広げることで、市が金銭的にも雰囲気としても潤うと思います。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
33	子育て世代への外出支援	交通手段としては公共の文通手段やタクシーなどが考えられますが、タクシーはとても便利な反面、密室のため、人による当たり外れもあるかな、と今までの経験から感じております。例えば女性だと並んでいても飛ばされたり、深夜に、「休憩しよう」と何度も言ってくる人がいたり、これも深夜ですが、きちんと伝えたにもかかわらず違う道を行くので指摘したら高速道路を逆走して戻られたり、といった経験があるので、身近に利用できる公共の交通があると子育て世代に限らず住民にとってもいいかな、と思います。 もちろんタクシーの運転手さんに親切にしていいただいた経験も多くあるので、時と場合により柔軟に使えたらいいな、と思っています。ちなみに市役所や交番のおまわりさんにもお伝えしたことがありますが、「学童送迎中」とか「高齢者送迎中」と書かれた紙を置いて関係のない所でエンジンかけっぱなしで昼寝していたり、車内でスマホしていたりするのには住民にとって迷惑なのでやめてほしい。と皆思っています。	
34	子育て世代への外出支援	先日、境南小学校において、境南小学校と地域コーディネーターの共催で、地域で育てる子供という会議が開催され、10年後の境南地域の子供達について話し合いました。境南小学校の先生方にくわえ、地元の保育所の先生、社会福祉協議会、日赤奉仕団などが参加しました。境南小学校の生徒たちの、授業における社会体験などの取り組みが紹介されるなどして、子供達の将来を育むための話し合いは充実してはいました。 しかし、境南町の地域に住んでいる子供たち全てが、公立の境南小学校に通っているわけではありません。私学に通っている地元の子供たちについては全く話題に出ず、また教育者の側からもその話は出ませんでした。子供を私学に通わせてきた親として、納得がいけない面がありました。先日の策定委員会において委員がおっしゃっていた様に、同じ税金を払っているにもかかわらず、いざ「地域」というと私学通学者はその対象から当たり前の様に外されてしまうことからくる「疎外感」に、行政の当事者も、議会の議員も、官民「協働」の営みに参加されている「市民」の方々も、なぜこれほどまでに「鈍感」であるのか、あるいは意図的に「無視」されているのか、まったく解せません。ぜひもう一度、自治基本条例の「市民」の定義を再確認してください。この文言に、地域の学校に通っている子供もそうでない子供も、全て地域に住んでいる子供たちと明記されること、そのことは、武蔵野市の子供たちの「現実」に焦点を当てる作業の第一歩であると思います。	
35	子育て世代への外出支援	子供は、突然、高熱を発します。親といえども、予想はできません。法的なこともあるでしょうが、日中であっても、数に限りがあるレモンキャブを使用することは、現実には難しいことでしょう。しかも、熱のある子供を公共の交通手段で病院に連れていくことはかなり厳しく無理があります。ましてや昨今のような感染症に罹患した場合、いかなる世代であっても、感染し発病した人が、公共交通やタクシーを使うことは困難でしょう。法的に難しいレモンキャブの試みとは別に、新たに、「子供」ならびに「高齢者以外の世代」に特化したオレンジキャブなるものを作るべきだと思う。	
36	子育て世代への外出支援	「誰もが利用しやすい交通環境の整備」で「誰もが」という割には障害者が入っていないのはなぜか。	
37	子育て世代への外出支援	p.30の資料、テーマ別論点シートの【市長公約】に「レモンキャブを子育て世代にも」とあるが、二次調の議論以前に現行法でレモンキャブは子育て世代には使えないことはわかっていたはず(市長も庁内推進本部の皆様も)。なのに「レモンキャブを子育て世代にも」という一言をぐっと膨らませて「子育て世代への外出支援」としたからには、発端である「レモンキャブを子育て世代にも」がなぜ実現できなかったのか二次調の本文に説明がほしい。	
38	子育て世代への外出支援	AI自動運転オンデマンドバスを導入すれば、移動の制約を解消できる。添乗や付添いを担当する保育職、介護職あるいは医療職等の送迎も可能となり、隙間時間勤務者やボランティアを含む従事可能者の飛躍的拡大で人手不足を一気に解消できる。	
39	子育て世代への外出支援	レモンキャブは担い手不足もかなり厳しい状況であり、紹介があるタクシーは高額にもなることから、子育て世代へムーバス回数券などを年間〇回のように提供してはどうでしょうか(ムーバスがベビーカーでより乗りやすくなる工夫なども必要ですが)。障害者福祉課でやっているように、ガソリン費orタクシー券などもうまく運用できれば外出支援に役立つのではないのでしょうか。	
40	子育て世代への外出支援	現在子育てをしているが、子供を連れての外出は苦勞も多いため、外出支援は重要な視点だと感じる。	
41	子育て世代への外出支援	移動の負担が大きい世代は具体的にどの年齢を指すのか？ハンディキャップの有無等も関係あるのか？不明瞭。	
42	子育て世代への外出支援	「移動の負担が大きい世代」という表現が分かりにくいように思う。第六次子どもプラン武蔵野 中間のまとめを見れば具体的な対象がイメージできるが、「世代(ジェネレーション)」という言葉だと、一般的には幅広い年齢層をイメージしてしまうのではないのか。	
43	子育て世代への外出支援	移動困難者の支援という視点でいえば、子育て世代だけではなく、高齢者や障害のある方等も含めた支援のあり方を検討してもよいかもしれない。例えば、グリーンスローモビリティ等、地域や民間ともコラボするなど。	
44	子育て世代への外出支援	「負担が大きい世代を中心に実施する」という表現について、施策のターゲットを幅広く設定しようとしているのか、反対にある程度絞ろうとしているのか、支援の水準に強弱をつけようとしているのか、方向性が若干分かりにくいのではないかと思います。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
45	子育て世代への外出支援	武蔵野市が生活圏であり、子育て中ではあるがレモンキャブ的なサービスが必要とはあまり感じていない。例えば電動自転車の購入補助とかの方が、広い意味での外出支援になるのかなとは思う。	
46	子育て世代への外出支援	「移動の負担の大きい世代」という表現が、乳児または幼児を連れた人なのか、高齢で子どもを世話している人なのか、または、子どもがある程度の年齢になり通学で遠くに通っているというような例も指すのか、等が分かりづらく感じたため、具体的に記載しても良いかと思いました。	
47	子育て世代への外出支援	子どもが小さい時、バス停の1駅分を歩くのも大変だったので、そして2駅分乗るだけでもとても助かった記憶があるので、とても良いと思います。	
48	子育て世代への外出支援	基本的に平坦な地形の市内では主に自転車移動が難しい方(多子世帯、妊婦等)が主な拡充の対象となるかと思いました。	
49	子育て世代への外出支援	「移動の負担が大きい世代」という言い方が主観的であるため、人によってイメージする世代が違ってしまわないか懸念があります。	
50	子育て世代への外出支援	多胎児家庭の移動経費の支援は既にありますが、年齢がばらばらの子どもを連れて移動するのが双子以上に大変、という声もきくので、重要な施策だと思います。また、子どもプランを読めばどの時期を対象としているかは理解できるので、あえて読み手によって解釈が分かれてしまう「移動の負担が大きい」という言葉を使わなくてもよいのではないかと思います。	
51	今後の学校改築のあり方の検討	もとの案の「教育面を第一に様々な観点から課題を検討し」から「子どもの学びを第一に」となり、「様々な観点」という言葉が抜けた。「子どもの学びを第一に」という言葉は、非常に長い議論を経て、委員の皆さんの考えが集約されていると思う。「様々な観点」という言葉が入った背景には、防災の話も含めて建物を改築するという意味合いもあったのか。	
52	今後の学校改築のあり方の検討	学校は都立高校を入れて20カ所が避難所に指定されている。そういう視点が計画案から見えてこない。学校には防災倉庫があるのだから、学校が避難所運営組織の拠点になるぐらいのところまで踏み込んだ防災の観点が欲しい。	
53	今後の学校改築のあり方の検討	体育館が地下にあると、避難所となったときに車椅子対応ができない。学校改築の際は、避難所となることを前提に施設を考えてほしい。	
54	今後の学校改築のあり方の検討	「教育を第一に」が「学びを第一に」に変わったことで、子どもが学ぶことについては考えるが先生が働くことについては考えないと読める。 「様々な」が消えたことで、あらゆる論点が消えたように感じる。 「建築面や財政面」が入ったことで、「やっぱり金か」と読める。市民の反発が考えられるが、私はこのままでいいと思っている。	
55	今後の学校改築のあり方の検討	学校改築のことで市民がどれだけ財政負担をすることになるのかという財政の問題をしっかりと捉えておかなければいけない。武蔵野市の財政は盤石のものではないこと、六長のときから人口動勢も変化していることを書いてほしい。財政のあり方を、今後10年、20年ではなく、学校改築が完全に終わるまでの一層広い視野で捉えて、ご提言いただきたい。	
56	今後の学校改築のあり方の検討	8、9ページ、学校について。前回、子どもの学びを第一に考えるということが「変更箇所のみ」というところに書いてある。確かに子どもの学び、学校は第一だが、武蔵野市として例えば公共の建物を防災の避難地として考えられているのか。	
57	今後の学校改築のあり方の検討	「子ども・教職員・保護者、地域の意見や専門家の知見を踏まえ」という文言のところで、例えば、防災の当事者として入ってくるのが、地元で考えると、専門家に消防団や日赤奉仕団があると思うが、そういうことは考えられているのか。	
58	今後の学校改築のあり方の検討	「知見を踏まえ」ということは、どのような形でその方々から意見を求めているのか。今までの実例として、どうか。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
59	今後の学校改築のあり方の検討	学校改築のあり方の、今回の調整計画の入り方は、数が適正かどうかという問題提起のように。それを見ていくときに、35ページ、36ページのどちらにも記述が出てくるが、例えば35ページの(2)「課題」の中に「全市的な観点から、昭和の時代に建設された中学校6校が必要かどうか」という書きぶりが、同様に次のページにもある。3の(1)の最初の部分、「昭和の時代に建設された中学校6校が必要かどうか」。行政文書として「昭和の時代」という言い方は非常に非科学的と思う。昭和64年まであって、真ん中に第二次世界大戦があって、教育の内容も全く違う。昭和を一つの時代に区切って、そこで建てられた6校が適正であるか適正でないか、こういう非科学的で非歴史的な記述はやめてほしい。もし本当に問題提起として、以前の子ども時代とは違うし中学校の存在の仕方は違うんだというなら、簡単でもいいから、どういう観点から必要なのかをもうちょっと科学的な視点から併記してほしい。したがって、これはあまり適切ではない資料に見受られる。 それを踏まえたうえで、中学校の数は6校が適正であるかないかということを考えるのであれば、まず1つ1つの中学校がどの程度の規模であるべきなのかということと、したがって市内での子どもたちの動向がどうあるのかということとの関係で、行政計画として必要だという立て方が本筋だと思うので、そういう視点からの問題提起の仕方をしないと、今後の議論の中で5がいいのか、4がいいのか、なぜ6ではダメなのか、そういう当てもない議論になってしまうんじゃないかという危惧がある。 1人目の子どもが境北小学校でしたので、桜野統合のときに父母であった。そういうことから見ると、あのときの桜堤の地域性、桜堤団地が空き家をつくり出して建てかえなきゃいけないという非常に大きな周りの環境の変化によって起きたのだが、そういう長期的な展望を踏まえてぜひこの議論をやっていただきたい。つけ加えられたように、まずは第一義的には子どもの視点からそういう議論をしていただきたい。	
60	今後の学校改築のあり方の検討	「テーマ別論点集」のときには、これはどうなってしまうのかなととても心配だったが、今回の計画案は、全市的な視点からもう一度考えていくところかなと思って、文面としてはこれでいいのかなと思っている。 難しいのは、市長部局が教育内容に介入するというのは、教育委員会制度の独立性の問題がある。ただ、設置者として、学校を今後どう改築していくかというところでは妥当な文面かなと思う。 ただ、小学校がやっと35人学級になって、中学校も今後35人学級の可能性があるだろう。そういう意味では、今の学級数、これは教職員定数が国の問題なので、国がどういう方向に持っていくかもあるが、武蔵野市らしい、より豊かな教育をつくっていくという観点から学校改築を考えていけたらいいなと思っている。個人的には今、中学校6校は必要であるし、その6校の中で充実した教育活動ができていくのが大事なかなと思っている。	
61	今後の学校改築のあり方の検討	そういう意味では改築と合わせて今ある学校をどう長持ちさせていくかということも大事かなと思う。	
62	今後の学校改築のあり方の検討	中学校もそうだが、1クラスに入る子どもたちの人数が、学年が上がると体も大きくなって、教室がパンパンになる。うちは第五中学校の学区だが、建てかえて1人当たりが広がっているという説明が、建てかえの基本計画のときに、たしかあったと思う。今回の二次調にはないけれども、支援学級や支援学校との交流共同学習というふうには、通常学級の籍でないお子さんが入ると、パンパンの教室にまたパンパンになるという現象がある。その辺は子どもたちの定数があって、いじれないと思いつつも、ちょっと余裕のあるスペースを建てかえて考えられませんかという意見を整備基本計画のときにお伝えしたことがあった。でも、そこはやはりなかなか難しく、廊下とか、学べるようになっている図書機能とか、大階段があるとか、新しいデザインになっているが、いろんなところで「子どもたち」に対応するみたいないことが見え消しで書いてあったと思う。9ページの見え消しで「学校の改築においては、地域で子どもたちを育てるという視点が大切である」というとてもすてきな言葉が入ったが、この「子どもたち」はどのような子どもたちを指しているか。今学んでいる子たちだけじゃなくて、いろんな子たちが通ったり学んだりすることができるような意味合いの言葉もプラスアルファあるといいなと思って、手を挙げた。 もう一つ、働くところで、さっき人材バンクのようなお話があったと思う。小学校の低学年で昔遊びというのがあって、地域の方が来て、こま回しとかを教えてください。それは地域コーディネーターさんが声をかけて、呼んでくださる。働くとかボランティア的な感じかもしれないが、もしかしたらいろんな部署でそういうことの、人材という言い方がいいのかわからないが、登録バンクみたいなのができていくといいのかなと思う。 この2点の1つ目、つけ加えていただいた「子ども」の定義のところをどういう意味合いで書いていただいているか。	
63	今後の学校改築のあり方の検討	8ページの文面、「子ども、教職員、保護者、地域の意見や専門家の知見を踏まえ」の最初に「子ども」と書いてある。子どもの意見は例えばどう聞いて反映するのか。あくまで私見でどのようにお考えか。	
64	今後の学校改築のあり方の検討	先生方の事務負担を削減する為にも、副校長先生初めサポートする市民の活用枠を増やすべきと考えます。また、単にオペレーションだけでなく、校内のお困り事を改善できるようなスキルのあるシルバークの雇用も検討すべきです。	
65	今後の学校改築のあり方の検討	学校の改築において、ジェンダーフリートイレがあるといいです。運動できるスペース、子どもたちが子どもの主体性を発揮できるスペース(オランダのイエナプラン教育のようなクラスのデザイン)というのが検討されると嬉しいです。	
66	今後の学校改築のあり方の検討	異論なし。 いままでの記載(二中、六中にフォーカスする記載)は学区域外の住民には唐突に感じて違和感がありました。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
67	今後の学校改築のあり方の検討	技術の向上により、財政的にも住民にも負担の大きい改築よりも現在ある物を補強して使う改修が主流になってきています。学校は子供達が学ぶ場所でもあり、生徒や保護者、先生方、住民の方々の交流の場でもあり、災害の際の広域避難所の場でもあります。普段から地域の方々と交流することにより地域の伝統を次の世代に受け継ぐことができ、幅広い年代の方々と接することで子供達の社会性も育むことができ、災害のような非常時にも普段の生活で培われた人間関係を生かすことができます。当初の計画では小学校一年生から中学校三年生までの九学年が狭い空間、いわゆる「三密」の状態が数年間過ごすことになっていましたが、成長期である大事な時期に、「三密」状態で過ごすのは心と体の発育に悪影響を及ぼす恐れがあり、病気にかかりやすくなる恐れもあることから、子供達に負担の少ない改修がいいのでは、という声が幅広い年代から開かれています。また、一中の工事には、一中、隣のマンション、近隣の個人宅の工事、道路の工事が重なり、子供達にも住民にも多大な負担がかかったので、負担の少ない改修がいいのでは、という切実な声が出ているようです。学校という場の重要性や、今まで述べたような皆さんの声を考慮して検討していただきたいと思います。	
68	今後の学校改築のあり方の検討	学校改築に関するのですが、「子供たちの学びの場」については、子どもに考えさせてはいかがでしょうか。 先日の策定委員会において、公募の2名の委員がそれぞれ小学生や中学生、高校生が自分たちの学校をどうしたいかやどうするべきか、しっかりと意見を持っているという話をされました。ある学校では小学生がいろいろな視点から自分たちの学校が避難所になった場合のフロアプランをつくっているという話もありました。かなり柔軟な発想をしているなと感じました。 もちろん武蔵野市の財政については、鑑みなければなりません。 小学生や中学生、高校生対象にまず財政の現実を説明した上で、どのような学校、学校のフロアプランを生徒が考えられるのか、ワークショップを開催するなどして、積極的に、子供たちにアプローチすることも大切だと考えます。	
69	今後の学校改築のあり方の検討	二中・六中だけでなく全体を検討することに賛成する。期限を切って、実現可能な時期を示してほしい。	
70	今後の学校改築のあり方の検討	通学距離について。武蔵野市はそれほど広くなく、山道でもないため、徒歩通学で鍛える方がよいと考える(交通安全やハンディのある人への配慮は必要)。	
71	今後の学校改築のあり方の検討	校舎の構造はできるだけシンプルに、必要に応じて変えられるようにしてほしい。	
72	今後の学校改築のあり方の検討	例えば大野田小学校は土地の関係で仕方がなかったと思うが、見通せる廊下がない。死角ばかりで使いにくいと思う。	
73	今後の学校改築のあり方の検討	ドアのない教室は「教室」として使いやすいか疑問がある。	
74	今後の学校改築のあり方の検討	安全面から小さい部屋でも出入口2カ所確保する必要がある。	
75	今後の学校改築のあり方の検討	エレベーターの設置など、バリアフリーは当たり前になっているが、実際には細かい所でバリアが残っている。当事者の意見を聞いて取り組んでほしい。	
76	今後の学校改築のあり方の検討	「おしゃれな」設備は不要。現場の先生の意見をよくきいて、また、専門科目については担当の先生や外部の人の意見もきいて、まず子どものためになるものを考えてほしい。	
77	今後の学校改築のあり方の検討	廃校舎や空き教室の活用事例はあちこちに出ているので、先回りを考えず、その時点でよいものを取り入れればよい。「構造」より「人」の問題。武蔵野市は空き教室の利用などに消極的だと思う。	
78	今後の学校改築のあり方の検討	特別支援教室のあり方や場所をまず考えていただくことで視野が広がると思う。	
79	今後の学校改築のあり方の検討	「数やあり方」についての検討は難しいと思う。あり方が分からないと適正な数の検討はできない。検討の順番が分かるように文章を変える必要がある。	
80	今後の学校改築のあり方の検討	「子ども、教職員、保護者、地域の意見」とあるが、今まで入学を門前払いされ在籍児童生徒にならなかった子どもやその保護者もこの中に含まれるのか。国連から勧告があったように、彼らからこれからの学校のあり方について重要な意見があるはずだ。	
81	今後の学校改築のあり方の検討	p.8 校舎のあり方について、かつて一点豪華主義なことがあったが、そうではなくすべての子どもたちが安心できる子どもたちのための学校をつくる必要がある。日本一を目的にしそうなことがときどき聞こえてくるが、日本一は結果で目的ではない。学校教育計画にあるように大事なことは子どもたちと教職員のウェルビーイングだ。	
82	今後の学校改築のあり方の検討	公共施設等総合管理計画の策定当時も学校の床面積が大半を占めているデータが出されていたが、学校の床面積を減らせということではないことを確認していたはずだ。床面積を減らす(学校数を減らす)理由にはならない。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
83	今後の学校改築のあり方の検討	学校統廃合の意見に数字がよく出てくるが150年続いた大量生産学校の話をしてるようにしか聞こえない。これからの学校の話をする必要がある。	
84	今後の学校改築のあり方の検討	p.34の資料、テーマ別論点シートの【市長公約】に“二中・六中の統廃合は白紙に”とあるが、基本施策5-④「(前略)全市的な視点から中学校の適正な数や将来を見据えた校舎のあり方について(中略)建築面や財政面なども含めて検討し、改築を進める。」と書き込むならば、白紙にはなっていない。むしろ、現在改築中の一中・五中を含む全中学校が粗上に載せられてしまった。市長公約が果たされていないどころか、市長公約のせいで改悪されてしまった印象しかない。	
85	今後の学校改築のあり方の検討	基本施策5-④、今後の学校改築において「地域で子どもたちを育てる視点が大切」という書き込みと、「全市的な視点から中学校の適正な数や将来を見据えた校舎のあり方」という書き込みが一つの項に並ぶのはどうも二重人格的に思えてしまう。良心と本心か？	
86	今後の学校改築のあり方の検討	基本施策5-④、「子どもたちの学びを第一に」と書いていただけたのは素晴らしいが、「全市的な視点から中学校の適正な数や将来を見据えた校舎のあり方について(中略)建築面や財政面なども含めて検討し、改築を進める」と結ばれてしまうと、本当に子どもたちの学びを第一に学校改築のあり方を考えていってもらえるのか不安しかない。先日開催された文教委員会で一中・五中の改築にかかる工事費約2億7000万円の増額が可決され、2日後の市議会本会議でも可決される可能性が高い。このような状況で、冷静に「子どもたちの学びを第一に」今後の学校改築や中学校の適正数の議論が行われるのかと危惧している。	
87	今後の学校改築のあり方の検討	AI自動運転オンデマンドバスを導入すれば、生徒の登下校の移動距離の制約を解消でき、教科別教室、体育館、プール、給食、障害者対応、医療的ケア等機能別の共用化による集約により、生徒人数の増減への対応が一気に効率化および柔軟化できる。保護指導者、介護職、医療職等の添乗や付添が必要な場合は、その送迎も可能となり、隙間時間勤務者やボランティアを含む従事可能者の飛躍的拡大で人手不足を一気に解消できる。	
88	今後の学校改築のあり方の検討	市の床面積で多くを占める学校ですが、単に縮減だけを目的とせず、子ども達の健やかな成長のための方策をお願いします。	
89	今後の学校改築のあり方の検討	中学校の適正な数を検討する中で、統合するという方針を打ち出したときに、関係する保護者、地域住民から反対の声があがると思うが、教育面、建築面、財政面のメリット、デメリットから総合的に判断してほしい。	
90	今後の学校改築のあり方の検討	テーマで「安全・安心かつ適切な施設環境の確保」としているのに、安全・安心について全く触れられていない。また「武蔵野市学校施設整備基本計画」に基づきの最初の一文と、「学校改築において、」に文脈に繋がりが無く、意味がわからない。また、「建築面」と書かれても、何を指しているのかわかりにくい。 例えば、学校改築は「武蔵野市学校基本施設整備基本計画」に基づき推進するだけでなく、社会全体で子どもたちを見守り・育てる必要がある。地域社会全体で子どもたちを育てるため、子ども、教職員、保護者、地域の意見や専門家の知見を踏まえ、子どもの学ぶ環境を確保する。また、学校内の施設・設備や財政面なども含め、将来性を見据えた学校の適正な数を検討する。」等、もう少し具体的にすればよいのではないかと。	
91	今後の学校改築のあり方の検討	本テーマにだけ「財政面」という表現を入れたことには疑問を感じている。文書全体を総じて捉えれば、次年度からの学校施設整備基本計画の策定に向けて、考え方や方向性を示していただけたと思う。	
92	今後の学校改築のあり方の検討	「～や専門家の知見を踏まえ、建築面や財政面なども含めて検討し、改築を進める」は「～や専門家の知見を踏まえた上で、建築面や財政面も十分に検討しながら改築を進める」といった表現のほうが読む人にとって分かりやすいのではないかと感じた。	
93	今後の学校改築のあり方の検討	教育を第一にという趣旨は理解しているが、他自治体と比べ密集して学校がある状態なので、現状維持が前提というのもどうかと考える。 人口減少社会の今後なども踏まえ、学校教育の充実と今後の健全財政を維持していくことのバランスとるのであれば、記載のとおり統合も視野にいれて議論していく必要がある。	
94	今後の学校改築のあり方の検討	「建築面」という表現に違和感あり、別の言葉にできそうであれば変えたほうが良いと思います。 建築で「面(つら)」という言葉が一般的に使われていることもあり、建築面と言う言葉への違和感と、この言葉自体が、建物の耐用年数ということか、意匠的なデザイン性ということか、建物の使い方に応じた中身の設計のことなのか分かりづらく感じてしまいました。	
95	今後の学校改築のあり方の検討	統廃合により自宅から学校までの距離が遠くなると、自転車通学やバス通学、あるいは国私立への進学も検討するようになるのかなと、計画案に直接関係ないものの感じました。我が家も地元公立中学校まで2キロメートル以上の距離があるため、どうせなら国私立中学を検討しています。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
96	今後の学校改築のあり方の検討	「学校の改築においては、地域で子どもたちを育てるという視点が大切」との記載が追加されましたがその通りと思います。学校改築の議論を通じて、これまでになかった地域同士の交流が活発化するのが理想ですが、そのためには統合先の地域の声ばかりが大きくなりたくないような気配りが今後必要となってくるかと思いました。	
97	今後の学校改築のあり方の検討	学校は子供だけでなく、全市民が使用する場所という視点からバリアフリーを考えてほしい。選挙の投票所として使用することが多いため。	
98	今後の学校改築のあり方の検討	「子どもの学びを第一に」という言葉を追加し、「関係者」という言葉を変えて一番に「子ども」と記載していただいた意図のとおりかとは思いますが、大人の声は大きくなりがちなので、当事者である子どもの声を聴くことを何より大事にして、工夫していったほしいと思います。	
99	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	吉祥寺イーストエリアについては、本町コミセンの建てかえ、複合化ということが書かれている。学校の施設もコミセンも、複合化を進めたほうがいい。	
100	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	吉祥寺、どういうまちをつくっていくかというところでは、吉祥寺らしいまちづくりをと思う。また皆さんの意見を聞きながら考えていけたらと思う。	
101	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	ユースクリニクができると嬉しいです。信じられる大人がいないとき、相談先がないとき、など、若者同士でいられる場、相談ができる場というのが身近にあるといいと思います。使いやすい場所にあり、隠れやすい居場所を感じられる場所でもある。そんな場所が使いやすいかなと思います。	
102	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	自転車について、自転車の方が行きやすい場合において、最近道路側に自転車マークがつけましたが、安全に感じない、または一方通行で行きにくいと感ずることがあります。オランダとまでは行かなくとも、フィンランドやベルギーなどのヨーロッパ諸国では、自転車のレーンが確保されています。現行の道路の幅にもよりますが、道路側よりも、歩行者の隣にあります。歩行者側にも自転車側にもアイコンマークがあり、一目でどの道を使うかがわかります。一方通行でもなく、譲りながら走れます。このようにより自転車を使用しやすく、排気ガスをださない手段が使いやすくなるといいなと思います。	
103	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	いずれも記載のとおりに進めて欲しいです。しかし、誰もが利用しやすい交通環境の整備と活力とにぎわいのある駅周辺のまちづくりは限られた土地のなかで両立せず八方美人的な記載に感じました。たとえば地下通路の敷設、道路フラット化＋通行時間帯の指定、無電柱化などが記載していると納得しやすいです。	
104	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	長年住んでいて、駐輪場は減る一方で駐車場は増えているように感じております。武蔵野市は面積もそれほど広くなく、高低差も少ないため、健康と環境のためにも幅広い年代が利用できる自転車を活用したらいいのでは、と感じております。今ある駐輪場を確保しつつ、今まで減少した分も補っていったら、と願っております。ちなみに武蔵野市自転車等駐輪対策協議会の委員の方々の方々の所属しか分からないので、他の委員会のように委員名簿があると傍聴して誰が何を話しているのか分かりやすいです。	
105	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	本町コミュニティセンターについてですが、アンケートにもあるように、東側の治安を良くするために吉祥寺図書館と本町コミュニティセンターを設置した、という経緯があるので、今の場所に存在していることが重要であると思われます。設置から現在に至るまで幅広い年代の交流の場であること、中高生も多く利用していること、学校の改修でも述べたように技術力の向上により財政的にも利用者・住民にも負担の少ない改修が主流になってきていることから、移転せず改修がいいと思われます。消防第二分団詰所の建替えも財政的な負担を踏まえて不要と思われます。武蔵野市は計画案にもある通り、地域公共交通の利便性が高く、起伏も少なく自転車に適した地形なので、健康と財政的な負担を考慮して自転車の利用を推進すべき、と思われます。それなので、市道298号線と299号線の拡幅整備事業は不要と思われます。	
106	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	「駅周辺のまちづくり」について吉祥寺だけが異常にボリュームが大きく、個別具体的な書き込みが多い。来街者も多くお金を生み出す街だから市長公約の中でも多く書き込まれ、この度の調整項目に入っているのだろうが、三鷹・武蔵境地区にも二次調整の俎上に上げてほしいまちづくりの困りごとはある。バランスを欠いた扱いに、吉祥寺地域外の市民としては鼻白むばかりだ。	
107	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	P.10下から4行目 中高生世代の居場所づくりなどの施設の複合化に向けた具体的検討とある。この方針に反対するものではないが、コミセンの意見交換会以外に地域団体へのコミセン建替えに関する説明会がまだ開かれていない中で、この部分が決定されるのは違和感がある。コミセンの聞き取りがある程度終わった段階で、地域にも説明の機会を持つと聞いていたので、地域で活動している団体などの皆さんはずっと待っている状況だ。	
108	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	AI自動運転オンデマンドバスを導入すれば、市民および外来者の回遊性が一気に高まり、バスターミナルや駐輪駐車スペースの大幅削減による道路交通や土地利用の効率化と同時に、風紀監視員等の送迎や風紀パトロールの並行も可能となり、隙間時間勤務者やボランティアを含む従事可能者の飛躍的拡大で人手不足を一気に解消できる。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
109	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	「まちづくりに関する個別計画との整合を図る」ことは、長期計画（調整計画）の策定においては前提なので、記載は不要ではないか。	
110	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	近隣市在住の息子（中2男子）も、たまの休みには、友達と吉祥寺に出かけています。吉祥寺イーストエリアのまちづくりで、施設複合化も検討しているとのことですが、若者世代の声を聴いても良いかもしれません。	
111	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	「消防団第2分団詰所の建て替え～」の部分は「にぎわいのある魅力的なエリアとするため」とは少々異質なため、その前の部分でいったん文章を区切った方がよいのではないかと考える。	
112	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	本町コミセンの移転の話と本町コミセンの跡地の話を連続して記載した後に、消防団詰所建替えや道路拡幅の話を書く方が、読んでいる方の頭が行ったり来たりしないでいいような気がします。	
113	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	自転車の走行動線の確保は必要だと感じています。特に八幡宮前の交差点は歩行者側、自転車側の視点どちらからも危ないと思っています。	
114	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	中高生世代の居場所としての武蔵野プレイスは、他市在住の者からすると羨ましい限りの場所なので、イーストエリアではなかなか難しいところだとは思いますが、そうしたものを期待したいです。	
115	吉祥寺イーストエリアのまちづくり	中高生世代の居場所づくりが明記されたことはよかったと思います。自転車については、策定委員会では、本当は駅近くまで乗り入れない方がよいと思っているというご意見も多かったように思いましたので、その経緯も大切にしてほしいです。	
116	吉祥寺パークエリアのまちづくり	南口には非常に古いビルが立ち並んでいる。周辺は来街者が非常に多いにもかかわらず、広場がない。道路は広くて6メートル、井ノ頭通りに抜けて公園に向かう道路は4メートル内外だ。交通広場の計画は、平成12年に決まってから二十数年間動いていない。井ノ頭公園の玄関口である吉祥寺駅南口は、雑多な光景が広がり、建物の更新は権利者個人のレベルでは解決できなくなっている。まちづくりは市が主体となって進める時期に来ている。行政が主体的な方向で進めるということを第二次調整計画の中でうたい込んで、いいまちづくりをしてほしい。	
117	吉祥寺パークエリアのまちづくり	現行の建築基準を満たしていないビルは、耐震補強するにも、周りが完全に道路に接していて、補強できる状態にはない。建て替えは努力義務であり、権利的にできないものではない。また、私どもの管理組合では、10年ぐらい前から共同化について検討している。大地震があって壁が落ちると、全て管理者、その区分所有建物共有の責任になる。建て替えるにしても、1棟だけ建て替えればいいのかという問題もある。新築すると、共同化しづらくなるという問題もある。仮に再開発となれば、補助金等が入る。それに見合った公共貢献をしながらまちづくりを進めていただきたい。これは行政主導で進めなければならない部分だ。喫緊の問題として書き込んでいただきたい。	
118	吉祥寺パークエリアのまちづくり	施政方針には、吉祥寺に「再投資」という言葉があったので、パークエリアの未来像の話を伺ったが、前から聞いていた話の繰り返しだった。タイムスケジュール的なものも示されない。何年間、検討と課題の抽出ばかりしているのかというのが率直なところだ。公共的空間の確保は高さの問題しかないと思う。井ノ頭通りは横断するにも相当時間がかかる、歩道に滞留もする。都市基盤の整備は遅れている。井ノ頭通り、吉祥寺大通りがある歩道幅でいいわけがない。吉祥寺に再投資するよりも、今年から再開発を始めるぐらいの意気込みで取り組まないと、どうにも立ち行かなくなる。吉祥寺南口については「準備に着手」ではなくて、スタートの年と考えていかなければいけない。	
119	吉祥寺パークエリアのまちづくり	大手のディベロッパーを呼んで協議しろということを申し上げるつもりはないが、「民間の活力の導入」という言葉が大事だ。吉祥寺をこのままに置いていいとは思わない。	
120	吉祥寺パークエリアのまちづくり	私は仕事の関係の研究会で夏に大阪と埼玉の浦和のほうに行った、が、久しぶりに行った大阪がやけに高層の建物ばかりになっていて、すごびっくりした。武蔵野に比べると随分緑が少ないと思ったが、高層を建てるにあたって緑化計画をして、これでも緑が増えたんだと大阪の方から聞いた。例えば、吉祥寺で今度計画があったときに、こういうまちは吉祥寺には合わないと思うながら大阪での2日間と、浦和でも同じように過ごした。そういう意味では、さっきおっしゃったような吉祥寺の歴史とか、商店会や市民の人たちがつくってきただけのところを大事にしたほうがいい。最近、都心ではビルの中に学校ができるみたいなのもあって、それ子どもにとってどうなのかなと思うので、武蔵野の子どもたちが伸び伸びできる学校になってほしいと思った。	
121	吉祥寺パークエリアのまちづくり	南口駅前広場は現計画は全く不十分なもので『「吉祥寺駅南口交通環境基本方針」の策定に向けた考え方』について』の可能性を採用し、全ての定期バス・空港リムジンバス・タクシー・自家用車まで使える広さにすべきである。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
122	吉祥寺パークエリアのまちづくり	井の頭公園の生かし方は駅を下りたときから公園を感じられるように、植樹(さくらなどおすすめ)、案内看板(多言語で)の設置をする。誘導路を複数確保し、七井橋通りの拡幅、パープル通りの沿道緑化を行い、自然と公園に入っていくようにしたら良い。	
123	吉祥寺パークエリアのまちづくり	周辺街区の活用は、可能性などでとどめておくのではなく、しっかり活用すべきである。 ①武蔵野公会堂は、近隣ブロックをまとめて大きな建物を建て、空地も大きくとり、緑の充実した憩いの場とする。建物は高層のものを建て、高さ制限は緩和し、ホールは客席数2000を超えるようなものとし、中層階には会議室・集会所・公共施設を、上層階は住居とする。帰宅困難者への対応も公会堂ビルが担う。 ②隣接する商業施設のビルも一つの大きなビルにして、やはり高さ制限を緩和して、低層は商業施設と、上層階は事業系の入るようにして、再開発該当者の入居先とすべし。	
124	吉祥寺パークエリアのまちづくり	吉祥寺南口の暫定広場は平成12年の決定からすでに20年経ってしまっている。「政治家」小美濃安弘市長は、小なる異論にまどわされず、次の時代を考えて「大いなる自分の考え」の施策を立て、実行することを切に熱望する。	
125	吉祥寺パークエリアのまちづくり	防災視点(特に震災)からのまちづくりを、武蔵野市主導で進めて頂きたい。 エリア内の狭い道路への来街者の人口密度が極めて高く、かつ、特定緊急輸送道路(井ノ頭通り)に面し、高経年化(老朽化)建物が密集している吉祥寺パークエリアでの巨大地震発生での被害の影響は、武蔵野市のみならず来街者を含む東京都レベルに置いても甚大なものと想定されます。 個別権利者による耐震化は、完成の予定が見えない長期間となり、吉祥寺パークエリアの活力を長期間奪うこととなります。 エリア内の一部権利者が集まり、公共貢献可能な共同建て替え事業(市街地再開発事業)を10年超勉強してきました。今回意見する「防災視点からのまちづくり」のみならず、南口駅前広場の整備を含めた公共交通課題解決や井の頭公園のゲート機能創出等、吉祥寺パークエリアのまちづくり、を早期に推進する為には、武蔵野市主導の街区単位で再編可能なまちづくり(市街地再開発事業)の検討が急務と意見します。是非とも本意見の主旨を第二次調整計画へ反映させて頂きますよう、よろしくお願い致します。	
126	吉祥寺パークエリアのまちづくり	記載の変更前後で主旨には変化がほぼないように感じました。 全体的に危機感を増した、という狙いでしょうか。実際、喫緊の課題だと思いますので異論はありません。	
127	吉祥寺パークエリアのまちづくり	今まで複数回市役所の方々にお伝えさせていただきましたが、吉祥寺の公園地域のプロジェクトチームの構成メンバーの年代に偏りが見られます。当初は十年目中心で、それから若手が加わる一方、今までの歴史的経緯を知っているベテランの構成メンバーがいません。また、オブザーバーが防災安全部防災課、都市整備部道路課、武蔵野開発公社から出ており、文化的施設があるにもかかわらず文化関係の方がおらず、人選が非常に偏っています。そのため取り上げられる話も偏っており、街をよく知らないのかな、という印象を受けました。構成メンバーとオブザーバーを公平に選んでいただきたいと思います。 公園の地域も長い歴史があり、計画案にある「再整備」という言葉は誤用であると思われる。社会実験という言葉にも違和感を覚える人は多いのではないのでしょうか。文化的施設である武蔵野公会堂については、プロジェクトチームの構成メンバーやオブザーバーをどう選ぶかということも含め、市や住民、利用者と文化的施設としてのあり方を検討していったほしいと思います。	
128	吉祥寺パークエリアのまちづくり	AI自動運転オンデマンドバスを導入すれば、市民および外来者の回遊性が一気に高まり、郊外駐車場整備による外来車両流入減による渋滞解消、バスターミナルや郊外駐輪駐車場の大幅削減による道路交通や土地利用の効率化と同時に、安全監視員等の送迎や安全パトロールの並行も可能となり、隙間時間勤務者やボランティアを含む従事可能者の飛躍的拡大で人手不足を一気に解消できる。	
129	吉祥寺パークエリアのまちづくり	バスタ新宿をはじめ、広島駅バスターミナル、八重洲高速バスターミナルなど最近のトレンドはバスターミナルの複合化です。 多層構造にして、建物と一体化することで土地建物の必要スペースの削減にもつながり、地下も利用してできるだけバス停の数も確保しています。 南口の狭い道を大型バスが走ってくるのは、歩いて怖さも感じます。ぜひ吉祥寺の地下空間も有効活用してほしいです。 また、バスの終着を別の場所にするのはいかがでしょうか。吉祥寺駅を起点終着点にすることでバス停に長時間バスが滞在し、よりバス停の数が必要になってきます。そこで、始終着点を駅前以外の場所で設定することで、バス停の効率運用をし、南口を利用せず、北口のみで運用するということもできると思います。	
130	吉祥寺パークエリアのまちづくり	文章が長く、伝わりにくいのではないかと。伝えたいキーワードがたくさんあるのは理解するが、長期計画(調整計画)は、忙しい人にも読んでもらえるように、できるだけ端的な表現にした方がよいと思う。	
131	吉祥寺パークエリアのまちづくり	「有識者」と「専門家」(学校改築のテーマの際は専門家)を使い分けているのでしょうか。	
132	吉祥寺パークエリアのまちづくり	イメージ的に大阪・梅田のうめきた公園のようなものができれば、日常の集い、イベント、災害時の帰宅困難者対応などができると思いますが、用地の問題で広い用地確保は難しいのでしょうか。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
133	吉祥寺パークエリアのまちづくり	吉祥寺の魅力に直結する重要なエリアであり、これまでなかなか進んでこなかった部分があるかと思いますが、「立案する」となったことで議論が前進することになり、良い方向だと思いました。	
134	その他	北口については、ハーモニカ横丁のことに一つも触れていないが、このままでいいのか。金沢の近江町市場は数年前、昔のイメージそのままにリニューアルした。ハーモニカ横丁も、安全面のことを含めて何かできないか。	
135	その他	「計画見直しのサイクルについて」に、「2年後ろ倒し」とある。2年延ばすことによる政策的な影響が気になる。長年の懸案である上水道一元化が事業として動き出すとなると、ある程度のスピードが求められる。財政にも影響する。上水道の事業の話と、上下水道両方のインフラの部分の再整備は喫緊の問題だ。課題として触れてもいいのではないかな。	
136	その他	財政の部分は、新しい数字も入れて非常に充実した形になっている。見通しのつきやすいデータもあわせて書かれている。だからこそ、一番お金がかかるであろう上下水道、インフラの部分の事業がいつごろから始まるのかが気になる。5カ年の中には入らないとしても、ヒントになることを入れていただくと、市民はわかりやすい。	
137	その他	現行のまちづくり条例について、業者による開発がある程度決まってから一般市民が知るということに懸念を覚える。どこに書けるかわからないが、そういう見解もお願いしたい。	
138	その他	本市が平和・文化・市民生活を大きく捉えていることは、今後あらゆる機会を通じて学校現場に戻していただきたい。武蔵野市が空襲に遭ってから80年ということは市民科でも捉えているが、平和の日条例を11月に制定した意味もあわせて、学校教育の現場で平和について根強く深めていただくことを希望する。	
139	その他	今回の六期長期計画については二次もあったので、意見を言える場所や、オンラインが利用されるようになって参加しやすくなったところは、楽しいという言い方は変だが、すごくありがたいと思う。市民で、いろんな意見を持ちながら、どこに出していいのかわからない方が意外といらっしゃって、例えばコミセンの隅に自分で書いたものをコピーして置いていたりする方がいたり、同じようなものをコンビニの棚に置いていく人がいたり、本当に様々だなと思う。 意見を言える場になかなか参加できないでいると考えると、市民にはいろんな方がいて、今の子どもの意見をどう聞くとか、小学校では自分の意見を言うという授業の体制に変わっていている。自分たちできちんと意見を伝えるということもされているので、委員がおっしゃったように、何年生ぐらいというよりは、調べ物をどう発表するか、どう伝えるかみたいなこともなされているのが見えて、学校等に行ってみるとおもしろいと思っている。 この長計に参加し、いろんな意見を言える場所をつくっていると感じる。それが逆に、長計には参加できるが、細かいところになると、ちょっとわかりにくい部分を感じられる。できれば、この長計に沿ったところでの「〇〇についての意見交換を細かく行います」みたいな形になっていくことを広くなるような体制にしていいただけると、やっぱりありがたいなと思う。 気がつくと、意見の募集が終わっていたということが非常にあるので、なぜこれが採り切れなかったんだろうというところが不思議である。プールの改修の意見の集約も実はもう終わっているみたいで、アッと思った。歴史のあるものではあるけれども、新しい形にどう変えていくことでまたそこで武蔵野市の収益を上げることができるのかみたいに考えていくのも、大事なことだったのかなと思っている。	
140	その他	いろんな形で支え合うということは必要になるが、市民を支えをしてくれるボランティアのように思ってしまうと、そんな人は今後いなくなるだろうと思う。支え合えるという環境づくりが生活の中で密着していくものになるのか、あるいは誰か人を介してやっていくことになるのかという部分、そこもよく考えてやっていただけたらいいなと思う。	
141	その他	私が武蔵野市に住んで30年ぐらいになる。けやきコミセンに参加するようになって、対話することとか議論すること、そういったものを学ぶ機会がとて多かった。 武三保問題に関わった方がいたので、そこからクリーンセンターをつくるということ、それを地域の方と話し合いをしていく、いろんなところを見学しながら、どういったものをつくっていくかということをして、あれができた。建てかえというところまでも考えていて、そこまでは準備はしたと伝えていただいている。でも、また建てかえなきゃいけないときは来るから、それをどうしたらいいかというのは、「あなたたちが考えるんだよ」と言われたが、恐らく建てかえの前に私はいなくなっているんじゃないかなと思う。市民が参加しながらきちんと意見を伝えられること、そういうことが出てきたときに、それにきちんとか対応できるだけのことは日ごろの中でも準備しておくことは大事だなと思う。 そういうことがあると、支え合いであったり、他者を考えることが準備できると思う。地域の中に公園を整備するので、市役所の方がコミセンに来て市民に説明会をするということにも参加する人がいなかった。通りの塗装、道路に色をつけて分離をすることの説明みたいなものをするときも、近隣の方の参加がなかった。そういうことは決して今に始まったことではなくて、しばらく前から市民があまり関心を持たなくなっている。忙し過ぎるのか、全く関心がないことなのか、住んでいることに対してもう少し責任を持つという言い方は変かもしれませんが、住んでいて税金を払ってれば市の職員が何かしてくれて、私たちは住めるようになっていくみたいな形では、住みやすいとか安全であるとかいうところが抜けてくる場合もあるんじゃないか。不信感を持っているということではないんですけど、きちんとか意見を言うことがとても大事なんじゃないか。人の意見を聞いたりすることも大事だなと思っている。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
142	その他	市民参加と住民自治は大事にしていってほしいと思った。委員が教育の義務ということをお話しされたが、憲法26条には教育を受ける権利もあるので、子どもたちの権利も大事にしていけたらいいと思う。	
143	その他	認知症当事者として、お世話になった武蔵野市で、子どもから高齢者まで、病氣や障がいの有無にかかわらず、全ての方を取り残すことない「共生社会」の実現に向けたお手伝いも、ぜひさせていただけたら嬉しく思っております。今は東京都の委員、とうきょう認知症希望大使も務めており、学びや活動を一緒にさせていただくことがあればと願っております。	
144	その他	第二次調整計画で議論しているテーマについてのコメントという意味では異論はないです。私が気がかりなのは従前から長期計画のなかで履行予定であったもの、そうでないものも含めて、今回の第二次調整計画には特段記載がない内容についてどの程度注力していただけるのか気になっています。 市長の公約と照らし合わせて新たに策定する観点は勿論必要ですが、今回の第二次調整計画でフォーカスする背景は、より上流にある住民のニーズや市政課題感に、変化や発見があったことによるものだと思いますので、状況を整理しつつ明文化するべきだと思います。（参考資料のほうに記載されているのかもしれませんが、読めておりません）	
145	その他	財政計画について 特に異論はないです。 提案ですが、中期的な将来のキャッシュフロー予測は、民間の場合だと、3パターン（最善、最悪、中間）を見込んでおき、短期的に状態観測しながら予め決めておいた事業の実行優先度の順に取組めます。市政でもこれを可視化しておくことで、スムーズな市政履行や市民自治の強化につながるのではと思います。	
146	その他	武蔵野市のように、全体の協調を得つつ、結局ウォーターフォール的に物事を進める場合、大きな事業ほど取り組みが滞りがちになったり、ハードよりソフト優先で対応しようとして大局観を失ってしまうような逆効果を心配しています。 市の取り組み自体は素晴らしいと思いますので、実現に向けてしっかり実行してほしいです。市政などの複雑な事象も、部分的にはすでにデータドリブンが可能だと思います。長期計画策定においても、より強い根拠とスピード感のある取り組みにしていきたいです。 その意味で長期計画全体の在り方として、まず ①各事業の優先度、②これまでの長期計画事業による効果、について明確に示すべきだと思います。 極論として全員が納得する市政や予測通りの市政は実現不可能でし、リソースは有限ですので計画から変更した事業や、後世で失敗と見做される事業もあると思います。 長期計画として、市がやること・やりたいこと・現状課題・事業の根拠などを記載するのは大変意義深いことだと思う一方で、市が出来ないこと、出来なかったことといった、一見するとネガティブな内容も含めて共有してほしいです。 長期計画において過去のネガティブな経験もある意味では成果物だと思います。また昨今の社会情勢において、効率的な市政づくりと市民自治の両立を目指すなら優先度や事業効果の公開、データ化はごく自然なことだと思います。また、これはわたし個人の価値観ですが、武蔵野市には下記のような市政の優先度であってほしいと思っています。 ・ハード環境整備 >> ソフト環境整備 ・災害につよくする > 犯罪や事件事故を減らす > 住民や市が儲かる > 住民を健康にする > 住民を文化的にする > 市の持続可能性を高める 要は、市にのみ出来ることで、且つ実施効果が高いものから優先的に取り組んでいただきたいです。 2019年に墨田区から転居してきて以来の市政を見る限り、ソフト環境には注力しているけれどハード環境にはあまり注力していない印象です。また例えば給食費の税負担化や18歳までの医療費の税負担化については広域の自治体（都）でも進めていることを市が注力するなど、ソフト的な内容についても調整していれば市は他の事業ができたのではと感じています。市の積み立て基金が潤沢にありながら、施設の高さや交通環境の悪さが目立つのも、大局観をもってハード整備に注力できなかった結果だと私は感じています（ソフト環境整備でやりくりできた執行部の優秀さもあると思います）。 これらのことから私としては現状に加えて下記のような具体的な取り組みを期待していますし、時々なたらきかけるようにしています。 ・無電柱化 ・防犯カメラ、防犯街灯、センサーの設置強化とIoT連携 ・水道一元化 ・市有地（遊休地）や空き家への防災機能付与（防災・非常時用品の倉庫） ・三鷹駅北口の官民一体での再開発による交通環境改善、歳入強化、まちの魅力と価値の向上 ・吉祥寺駅南口の再開発による交通環境改善 ・吉祥寺駅北口の再開発による防災機能強化、歳入強化 ・社会的弱者を対象としたコンパクトシティ形成のための再開発 ・公営住宅の整理と建て替え ・市の施設の機能複合化と防災力強化 ・吉祥寺の小規模事業主のためのECプラットフォーム構築 ・市政センター強化…市の義務的役割の分散による市民と行政の負担軽減（物理的負担、心理的負担） ・施設やムーブスへの広告税収強化、ネーミングライツ導入 ・ふるさと納税による歳入強化 ・病院の誘致 ・住民のための受益環境の整備（各種の市のリソースについて、住民の利用を優先するなど） ソフト整備の優先度を今より多少落としてでも、ハード環境の整備を強化していただけると有難いです。	
147	その他	長期計画は今まで通り対面でしていただきたい。わざわざオンラインにする必要性が感じられません。オンラインだと画面からの情報も少ない上、音声に集中するので疲れます。 十月二十二日（火）に実施された第六回策定委員会では、音声が見えなかった場面もあり、画面上に書面が写真にされたまま長時間静止していた場面もあったので（その間人は写っていません）、先生方の発言が聞き取りにくく、様子も全く分からなかったもので、やはり対面でないと何が議論されているのか分からない、と強く感じました。 今まで通り対面の会議で、同室で傍聴できるようにしていただきたいです。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
148	その他	ディー・アグリーにおいては、人工知能が自動的に議論の進行促進を行うとされており、人工知能の行為について誰が責任を負うのか記述がありません。責任の所産が明らかにされていないことに強い不安を感じました。私は人工知能の専門家ではないので、一般市民として疑問に感じたことをこれから伝えたいと思います。 まず、人工知能の学習過程についてですが、よく言われるのが学習する素材に偏りがあるということです。確かに教育関係だったと思うのですが、「掘る」に関連する単語を人工知能に集中的に学習させているのは偏っているのではないかと、という指摘を複数回目にしています。使われている人工知能の学習にどのような素材が使用されているのかは公表されていないのが一般的なもので、この観点からも人工知能の中立性に関して疑問を感じています。 次に、知的財産との関係についてですが、ある米国のメディアが人工知能の検索サービスを手がける会社を訴えたのがニュースになっていました。急速に人工知能の活用が進む現状を見ていると、いろいろな意味で難しいと聞く著作権を含む知的財産関係の調整をしていないのではないかと、ニュースになっているのはごく一部で、実際には広範囲に渡り知的財産が侵害されている恐れがあるのではないかと、という疑問を感じています。 また、これも米国ですが、ある俳優が自分の声を人工知能の学習に無断で使われたと言ってニュースになっていました。このことから、私は一般市民なのでよく分からないのですが、個人情報が無断で人工知能の学習素材として使われているのではないかと、広い意味でのプライバシーの侵害がなされているのではないかと、という疑問を感じています。 今回ディー・アグリーにおいて人工知能の行った行為の責任を誰が取るのかということについて記載がない上、今まで述べたような疑問があるので、人工知能の進行促進役としての中立性にも疑問を感じ、無断で発言内容を取り消されないだろうか、発言内容をこれまで無断で人工知能の学習素材として使われないだろうか、と心配になり、パソコンを持っていないこともあってディー・アグリーの参加を見送りました。このような理由からパブリック・コメントの回数を増やしてほしいと願っています。	
149	その他	二次調整の必要はなかったのではないかと感想だ。携わった策定委員会や事務局の皆様を批判するものではない。そもそも長期計画は(良くも悪くも)広い可能性で読み取れる書きぶりになっているのだから、二次調整で市長公約を書き込もうとしても、ほんやりとした「市長公約が入っているのかよくわからない」仕上がりにならない。そういう仕様だから。それをよくご存じのはずの市長や庁内推進本部の皆様が予算を組み二次調整しようとしたこと、策定委員会や事務局の皆様の努力がありつつも一次とあまり変わらない内容のままであることについて、市長や庁内推進本部の皆様の感想を何らかの形でお聞かせいただきたいと思った。金(予算)・人(委員・職員)・時間(労働時間)は有限だ。すべて他の施策に使って欲しかった。	
150	その他	AI自動運転オンデマンドバスを導入しUTMS (Universal Traffic Management Systems)と連動させ、警備会社の遠隔監視体制および警察や消防への緊急通報体制を整え、乗客のニーズに合わせ車掌、保育職、介護職、医療職などを送迎し添乗してもらう仕組みを整備すれば、最低のコストで理想的な解決が可能です。 高齢者の社会参加や子育て世代の外支支援、ムーバスの路線増設や増便ニーズの吸収だけでなく、学区制限の緩和や学校施設の共用による建築コストの抜本的効率化、あるいはまちづくりにおける回遊性拡大や、郊外駐車場整備による外来車両流入減による渋滞解消、バスターミナルおよび駐輪駐車場の大幅削減など、次世代の安全で快適な市民生活が現実のものとなります。 一気に実現できなくても、そこをゴールと見定め段階を踏んで漸進すれば、最短で最適の実装に至りますが、他の実証実験の成果を待っていたのではお仕着せの不満足な実装しか期待できません。容易な取り組みではありませんが、事業税に頼らない有数の担税力と歴史的な教育委員公選制で知られる高い市民意識を備えた武蔵野市民こそが先駆けとなり、成果の恩恵を他の自治体に及ぼすべき立場にあると考えます。	
151	その他	AI自動運転オンデマンドバスの実現は国あるいは企業任せでは実現困難であり、市民の協力と自治体の主導による研究開発投資が不可欠だ。困難は大きいものの成功により得られる経済効果および社会的効果は絶大であり、担税力と高い市民意識を備えた武蔵野市が、まとまった額の市税を投資的経費として継続投入するに値する総合事業であると考え。	
152	その他	計画期間をずらしたことがよかったと思います。市長・市議選挙後に策定が始まることで市民の意見が反映されるベストタイミングだと思います。	
153	その他	必要な部分のみコンパクトな記載でわかりやすいと思います。	
154	その他	第七期長期計画からは、計画策定(見直し)のスタートが市長選挙の翌年度からとなり、市議会議員選挙が計画策定中に実施されないことにもなるので、理想的な計画サイクルはないのではないと思う。 計画の文言では、「諮問から答申までの間に市長選挙を挟む」ことだけが記載されているが、市議会議員選挙のことも記載し、次の段落の「こうした課題」につなげてはどうか。	
155	その他	長期計画(調整計画)に掲げる施策の実現を担保するため、財政計画もあわせて策定していることが本計画の特徴であるが、第二次調整計画で議論した5つのテーマ(施策)については、事業費を見込みにくいため、今回の財政計画が施策の実効性を担保しているか疑問である。この計画はイレギュラーな策定であったので、従来の表現(「第二次調整計画の実行性を担保し」)を踏襲しない方が良いと思う。	

通番	計画案のテーマ	意見の要約	意見に対する対応
156	その他	第六期長期計画・調整計画は、かなりの労力と時間をかけて策定した計画である。長期計画条例第3条に基づき、実行計画の一部見直しをしたことは良いが、現行の第六期長期計画・調整計画の冊子も活用される第二次調整計画にしてほしい。	
157	その他	「第二次調整計画で議論しているテーマ」の多くが第一次調整計画でも読み取れる内容であるように思いました。	
158	その他	武蔵野市の計画行政の特徴でもある、長期計画とマニフェストとの関係が試される策定だったと認識している。 六長調を最大限尊重しつつ、マニフェストのうち読み取ることが難しいことに絞って策定すること、2年後ろ倒しで選挙とスケジュールを合わせるということは、選挙と長期計画の綱引きの結果としては妥当な着地点だったと考える。	
159	その他	大変尽力されているのが分かり、皆さまの労力に頭が上らない思いです。	
160	その他	3ページの「令和7(2025)から11(2029)年度」について。3ページは令和と年度をまとめていると思うのですが、「～」ではなく「から」だとなんとなく不自然に感じてしまいます。	
161	その他	個人所得の増や、令和9(2027)年度評価替えによる固定資産税等の評価額の上昇見込み等により、計画期間の5年間の市税は、増傾向で推移すると推計した。 とあり、物価高騰や人件費高騰の影響を受けているものの価格に転用しにくい医療や介護・保育など福祉業界への支援が必要だと感じます。	
162	その他	計画案そのものよりも参考資料のボリュームが多く、計画案を20ページにまとめる技能に感動しました。	
163	その他	現計画からの見え消しが参考として記載されているのはとてもわかりやすかったです。	
164	その他	参考資料のテーマ別論点集については、そこに掲載された他自治体事例と現在の計画案では少し方向性が違うのでは？と思うものもあり、あえて付けなくてもいいと思いました。	
165	その他	今回の策定の根拠となった長期計画条例の記載についても触れてもよいのではないかと思います。	